

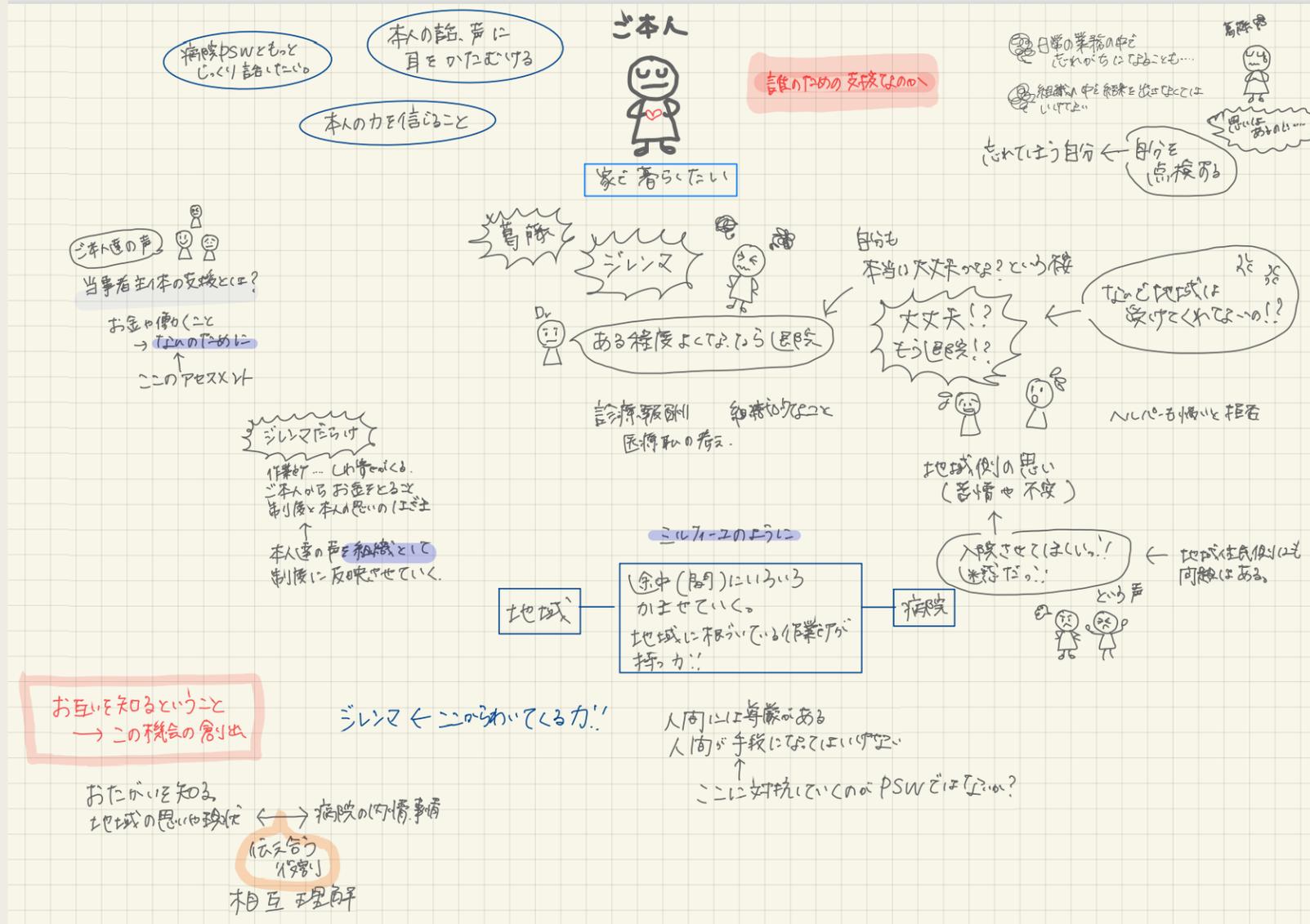
三重県精神保健福祉士協会  
令和4年度 総会まとめ

# パネルディスカッション —PSW同士でとことん語り尽くす—

- コーディネーター 福井県立大学 牛場裕治先生
- パネリスト
  - わかば共同作業所 瀬古さん
  - 志摩市障がい者相談支援センターこだま 岡さん
  - いーばしょ 野田さん
  - 榊原病院 大澤さん
  - 松阪厚生病院 辻さん



# まとめてみました



# パネルディスカッションから 生まれた言葉

☆ちよつとずつ人を挟んでいくことで、  
いろいろな人とつながっていき、そこから  
少しずつ理解が広がっていく。  
☆これを「ミルフィール効果」と言う。

By瀬古さん



私たちは代弁者でもあるが、本人が自分から発信できるのに代弁してしまうといったこともあり得る。本人の主体性を奪わないようにしたい。

ジレンマ、ずーと悩みながら仕事をしてきた。これがあるから乗り越えようとする力が湧いてくる。

誰のための支援なのか？

退院までに、病院PSWとじっくりと話し合い、本人のためのアイデアを出していきたい

自分が感情的になっていたことに気付く

お互いをよく知ることが大事



今回のような「点検の場」が必要

# グループワーク 振り返り ーそれぞれの思い・考えー

- ・ ジレンマは病院にも地域にもある。
  - ・ 組織の理念を守りつつ、利用者と向き合っている。
  - ・ 制度と向き合うこと、制度を変えていく必要がある。
  - ・ お金のことで本人が退院したい場所へ行けないことがある。
  - ・ アセスメントや見立てが大事。共有できていないと全てが狂う。
- 
- ・ 本人の思いを大事にすること。
  - ・ 顔の見える関係を構築していくこと。気軽に聞ける関係。
  - ・ アセスメントや見立てを関係者で共有していくことで支援の輪が広がる。
  - ・ 相互理解を深めることで、頼りあえる関係になる。
  - ・ 「つなぐ」という役割 → 「架け橋」となる努力
  - ・ 時間をかけてお互いを「知っていく」ということ

- ・ 同じ精神保健福祉士でも職種が違ふ。
- ・ 正しいことが正しいと言えず、その調整が難しい。
- ・ 病院と地域で全体のフォローが必要。
- ・ 事例検討などでつながりが持てるとよい。
- ・ 法や制度でのジレンマを感じる。
- ・ 精神保健福祉士はジレンマが仕事。

- 普段から情報共有しておくこと、危機時の際などにもスムーズに対応できる。
- 受診相談の際、診療情報提供書などの書面だけのやり取りに留まらず、精神科-神経内科の両方の主治医との間を丁寧に繋ぐことによって、病診連携が円滑に進んだ。
- 医療機関のPSWは、病病連携や病診連携はスムーズかもしれないが、福祉との連携に課題があると感じることがある。
- クライエントの次のステップを考えると、顔の見える関係があると、安心して支援を繋ぐことができる。私たちの顔の見える関係は、クライエントの安心感にも繋がっているように感じる。

- 退院前にカンファレンスを行い、情報を共有することは大事だと思うが、どういった情報を共有するのか、何を伝えれば良いのかが難しい。
- 施設へ退院する時など、入院前にどのような状態で、どれくらい良くなったのかを知ってもらいたいと努力をしている。また、退院前に施設の職員と本人に会ってもらって、安心していただいた状態で退院できるように気をつけている。
- 支援を行う中でどこが対応するとかではなく、関係するみんなが集まって話し合い、何が出来るのかを考えていくのが大事で、地域で支える仕組み作りとは、誰がするのかを決めるのではなく、相談を最初に受けた人が周りの力を借りたり相談をして支援体制を整えていくことだと思う。
- 長期間、同じ場所へ入院や通所している人に、次の場所（退院や就労）を勧める時、本当に必要なのか今更じゃないのかと悩むときがある。しかし、関係性を気づいて話をしていく内に興味を示し、前向きに考えててくれる人も居るため、本人との関係作りを大事にしていきたい。
- 長期入院者への退院支援を行う上で、病棟主導で本人の意志ではなく、早く退院させる手段として施設（グループホーム）を提案されることがあるが、本人は施設を知らず、イメージが出来ていない中で、本人の意向と病棟の提案の間で、本当にこれで良いのかなと（退院した後も）モヤモヤする事がある。

- 相談支援事業所に計画相談を依頼したときに、アセスメントの場で事業所に行くのを辞めるといった患者さんがいた。お願いをしている手前、相談支援事業所に対して申し訳ないとジレンマを感じた。しかし、相談支援事業所としては、本人の思いが変わるときもあるので、気持ちが変わったときに本音を話し合える関係を築くことがより良い支援につながるのではないかと感じた。
- 支援者としてできないことはある。時には、自分の業務の枠を緩めて本人の希望や意向に寄り添って進めていくことも大事。
- お互いに情報共有は大事。その中で、「もっとできるんじゃないか?」「どうしていこうか」と考えていくことが私たちにとって大切。その中心にはご本人がいることを常に忘れない。
- 「誰のために支援をしているのか?」所属組織のために動かざるを得ない時。この問いかけを忘れずにいたい。

- 警察や地域で困って病院に連絡があり、「きっと入院させたいんだらうな」と思い、入院して一度リセットして社会生活に戻るのもありかと考えながらも、いざ入院したときに、「本当にこれでよかったのか？」「ほかに何かできたのではないか？」と考えてしまう。
- 地域で生活をしている本人に警察の介入がある場合、犯罪を起こさない観点で話を進めたい警察と、地域生活を継続するためにどうしていくかを考える支援者とで、考え方が合わないので、誰のために支援や行動をしているかを忘れずにしていきたいと感じた。
- 施設において、ルール違反があり退所になってしまった方がいたが、ルール違反をした理由を話してもらえなかった。話してもらうためには、こちらから何かできたのではないか、違う関り方があったのではないかと感じた。きっと本人なりに何かを伝えたかったのかもしれないと思うと、もやもやする。
- 病院として、入院中も地域の支援者には、同じように伴走してもらいたい。地域の支援者としては、主治医との面談の機会には病院PSWも同席してもらえるとありがたいです。病院、地域、お互いに本人にとってより良い療養、生活になるように歩み寄っていくことが大切。

- 退院の条件としてデイケア通所を提案されるが、クライアント自身は必要性を感じていない場合もあり、結果、デイケア通所が長続きしなかったという事例があった。利用が続かない理由は様々であるが、クライアントのニーズとスタッフの意見との間に乖離がある場合の調整や、クライアントの動機づけに関する支援が十分にできない自身に対してのジレンマを感じた。
- 勤務異動で部署が変わると、支援対象や業務内容、求められる役割が変化する。その変化に自身がついていけない時があり、ジレンマを感じる。
- 受診相談を受ける際、相談者が家族、地域の関係機関であることが多い。P S Wとして、本人主体でなければならないという思いがある一方で、非自発的入院の調整を担うこともあり、ジレンマを感じる。後にクライアントの利益に繋がると信じて支援するが、「本当にこれで良かったのか？」と考えさせられる。
- 危機対応が必要な事例に関わることも多く、本人の意向に沿った支援を丁寧にしていくと言ったかかわり方が難しい場合がある。本人を守るためと信じて業務に携わるが、ジレンマを感じることもある。

- 病院内の中でも職員や職種の違いによって意見があり、それに応えていくことについてジレンマを感じる部分もあり。
- ジレンマがあると辛いですが、ジレンマがあることで自己研鑽や再確認することができるから、ジレンマはあってもいいものだと感じた。
- 地域連携の部署に配属され、入院時にしか関わりがないが、入院時より退院の意向など確認をしていくが、家族等がやっとの想いで治療につながったがすぐに退院の話をしていくことなどジレンマを感じる部分もある。
- 家族の想いや施設の想い、病院内での想いなど「相手の想いが想像できるワーカー」になれればと感じた。
- 三重PSW協会にも、同じようなジレンマをもっている仲間・先輩がいることを知った
- 病院から退院し、施設利用する中で、「退院だからよろしく」ではなく、本人様のアセスメントや見立てなど情報共有していただけると助かる。顔の見える関係を築いていけるようになれればと感じた。
- 当事者主体の支援が大切なのはわかるが、当事者の意見だけではうまく回らないこともあり、当事者の意見を尊重しつつ軌道修正していくような支援するように心がけている。

私たちは何のために、誰のために  
ソーシャルワークを行うのか？

# まとめ

- ひとりひとりのPSWがそれぞれの現場でジレンマ・葛藤を抱えている
- ジレンマ・葛藤を抱えているのは、PSWとして真摯にご本人や家族に向き合っているから。だから、ジレンマや葛藤を抱えることは悪いことではない。大丈夫。
- ジレンマや葛藤を抱えるひとりひとりのPSWを支え、気持ちを分かち合い、専門職として明日からもまたがんばれるようなネットワーク、仕組みを作っていくのが県協会の役目
- 今回の企画で得られた声や、アンケート結果をもとに今後県協会としてどのような活動を行っていくか検討していきたい
- 誰のためにソーシャルワークを行うのか？この問いを忘れずに現場のPSWを支えていきたい